

平成30年度 事業所職員向けアンケート集計

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係が適切であるか。	6	1		個別活動時には、間仕切り用扉（シャッター）を閉めて少人数で活動できる部屋を作り、全体で行うプログラムの時には間仕切り用扉を開け大きな部屋にして活用が可能。 遊戯室は、利用者全員でレク活動ができる広さがある。 指導訓練室で利用者が休憩するマットの上に、安全性と衛生面に配慮し布製シートを敷いた。
	②	職員の配置数は適切であるか。	3	4		職員配置数については、保育士を加配。 同性介助の面をからも、男性スタッフの補充を検討。
	③	事業所設備について、バリアフリー化の配慮が適切になっているか。	5	2		バリアフリー化された施設・設備となっている。 非常災害時等の避難の方法について、玄関自動ドアの開くスペースから、車椅子の方を優先避難するスタッフ対応マニュアルを作成した。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2		毎週月曜日は全体プログラムの振り返りと、今後行う内容の説明と確認、火曜日は全体会議、木曜日は個別課題に関する会議を出来る範囲で設定している。個別課題については、その進行状況や利用者の様子について各スタッフからの報告をもとにグループで話し合い、児童発達支援管理責任者が確認している。全体会議では、業務の改善や、行事の計画等を行っている。
	⑤	保護者向けの評価票を活用するなどによるアンケート調査を実施して、保護者等の意向などを把握し、業務改善に繋げているか。	7			保護者向けアンケートについては、昨年同様ガイドラインで示された様式の内容と、マ〜チ独自の項目を追加したもので調査を実施。今年度は、昨年度のアンケートで保護者から提案のあった内容を参考に、家族参加型の行事を初めて企画、実施した。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	7			法人ホームページに掲載。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか。			7	
	⑧	職員の資質向上を行う為に、研修の機会を確保しているか。	7			今年度は、高校卒業後の進路における地域資源、福祉サービス利用までの手順・流れについて、就労継続支援、グループホームを運営している事業所管理者を講師に招き、保護者も参加できる事業所内職員研修会を開催した。 虐待防止・権利擁護をテーマとした事業所内職員研修会を開催した。

適切支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			総合的な観点でアセスメントを行い、放課後等デイサービス計画を作成することを目的に、学校と情報共有する機会を、昨年度より増やすことが出来た。今後も関係機関との情報共有の機会が増えるように、調整を図っていく。
	⑩	子どもの適応行動の状態を図る為、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	6	1		放課後等デイサービス計画の作成ソフトの更新と合わせ、アセスメントシート（アセスメント項目）の見直しを行った。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			活動プログラムは月初めにスタッフで確認し合い立案している。
	⑫	活動プログラムが固定しないように工夫しているか。	7			クッキングや製作に関しては、その工程を細分化し、支援者が各利用者の役割を決めるのではなく、利用者自身がどの工程に取り組みたいかを選択できるように工夫している。 レクリエーションについては、その内容や難易度に応じて、全体で行うものとグループに分かれて行うものに分けて企画している。 体を動かす内容や、子ども同士でテーマに沿って話し合う事、レクゲーム等で小集団での楽しさや成功体験の積み重ねを目的として内容を変えながら提供している。
	⑬	平日、休日長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定しているか。	7			平日は個別課題や全体プログラムの参加がメインであるが、休日では、グループでの取り組みと、個別課題、全体プログラムと午前午後で固定された内容で設定している。また、休日長期休暇には、平日では時間的に実施困難な調理体験や外出行事などを企画している。
	⑭	子ども達の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	2		利用されている方の個々の課題を見極め、具体的な支援策、取り組み内容を個別活動や集団活動に盛り込み、放課後等デイサービス計画を作成している。（食事や排泄など身辺自立に関する項目を重点目標としている方は、その都度の支援内容をベースとして計画を作成している）
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	7			平日は、毎日支援開始前に打ち合わせを行い、支援内容等の確認をしている。長期休暇や休日については、支援開始前にスタッフ全員で打ち合わせを行うことは難しいため、ホワイトボードなどにその日の役割を提示し、各支援者で確認し業務にあたっている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか。	4	3		終了後は、利用者送迎対応など勤務体制上、打ち合わせの時間が取れないため、翌日に必ず前日の振り返りを行い、情報を共有している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取る事を徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	7			日々の支援は、利用者ごとに記録・保存している。 各利用者について、どの点を注意して観察・記録するかを一覧にしたものを支援者が確認して記録を取っている。 ケース記録については、児童発達支援管理責任者が行うモニタリング、及びサービス担当者会議の際の資料として活用している。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	7			個別課題等の内容の経過を観ながらモニタリングの見直しを行っている。
⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			一日のプログラムとして、「個別での課題」と「全体プログラム」の2点を組み合わせて活動を計画している。	

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	7			児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定の交換、子どもの下校時間の確認など）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			学校との情報共有では、年度初めに必ず利用者の在籍校に挨拶に回り、送迎時の注意事項、当該学校に在籍の利用者、スタッフ（顔写真付）一覧などをまとめた用紙を校長先生、教頭先生に手渡し、その際年間行事予定も頂いて連絡調整を行っている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。				現在、医療的ケアを必要とする子どもの利用相談や受け入れはないが、今後も看護師などの医療スタッフの配置がない体制・状況での受け入れは困難。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有するなどしているか。	6	1		小学校低学年で新規利用されるケースでは、就学前に利用していた療育の場（こども発達支援センター、保育所、幼稚園など）があれば、情報を確認している。小学校高学年や中学生で新規利用する場合は、現在の様子とはかなり違う事も多いため、その場合は保護者や現在の担任教諭などと情報共有を図ることが多い。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容などの情報提供などは行っているか。	1	6		進路先から情報提供の要請があったとしても、原則保護者からの要請で関係機関に情報提供することを徹底している。
	㉕	児童発達支援センター、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	4	3		今年度は、保護者面談等で相談・悩みとしてあがることの多かった、高校卒業後の進路における地域資源や福祉サービス利用までの流れについて、就労継続支援、グループホームを運営している事業所管理者を招き、事業所内での研修を行った。今後も、専門機関との連携による研修のほか、保護者からの要望等も確認しながら、研修の企画を行っていく。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会はあるか。			7	現在、放課後児童クラブや児童館との交流は行っていない。
	㉗	（地域自立支援）協議会などへの積極的に参加しているか。			7	自立支援協議会の構成メンバーはおらず、参加できていない。
	㉘	日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			保護者の方とは連絡帳で情報を共有している。また、保護者からやマ〜チから気になる事があれば電話でのやり取りや、実際に面談を行うなどして対応している。
	㉙	保護者の対応の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか。		4	3	保護者に対し、ペアレントトレーニングの支援は行えていない。今後、支援者がペアレントトレーニングを学び、日々の支援の中で実践していく。その効果を計画説明や個別面談の際に、ペアレントトレーニングの有効性の具体例を交え伝えていく。また、市内外で行われているペアレントトレーニングの講習会などの情報なども、広報誌等で適宜お知らせする。

保護者への説明責任等	③①	運営規定、支援内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			利用者負担、運営規定については、契約時の説明、もしくは変更時に説明を行っている。支援内容については、放課後等デイサービス計画の説明、面談、茶話会等で説明している。
	③②	保護者からの子育ての悩み等に対する相談を適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	7			相談を受けた場合は必ず電話、面談により助言を行っているほか、より専門的なアドバイスを求められた場合は、必要に応じ関係機関につなぐよう支援している。 保護者からの相談内容や、家族の抱える悩みなども参考にしながら、年に1度開催の保護者向け研修会のテーマや講師の選定を行っている。
	③③	父母の会の活動を支援したり、保護者会などを開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	5	2		マ〜チの中で、保護者会はないが、年に1回以上茶話会を行っている。 保護者が一緒に参加する調理体験等の企画を検討中。
	③④	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に対し周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			保護者向けアンケート実施の際には、より率直な要望、意見を出してもらえるように、受け付け方法を工夫している。（匿名、郵送で回収） 苦情への対応としては、受け付け段階で苦情解決責任者（管理者）まで報告の上、速やかにスタッフ会議、苦情解決委員会を開催。今後の対応等について検討した内容を、利用者ご本人、ご家族へできるだけ迅速かつ丁寧に説明する事を意識している。
	③⑤	定期的に会報などを発行し、活動の概要や行事予定、連携体制などの情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			毎月広報誌を発行し、連絡事項や日々の活動について掲載している。行事实施後は、参加した利用者の様子について保護者に書面で報告をしている。
	③⑥	個人情報に十分注意しているか。	7			個人情報を含む書類・ファイルなどは、カギのかかる書棚にて保管している。
	③⑦	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	③⑧	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営を図っているか。			7	地域住民を招待しての行事企画に関しては、利用者、保護者の希望なども十分確認しながら行う必要がある。

非常時等の対応	③⑧	緊急対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	4	3		各種マニュアルは策定の上、茶話会等の保護者が集まる機会に概要説明を行っている。（参加できなかった方には、後日書面にて報告） また、感染症等が流行する時期には、事業所内で実際に行っている取組み等について、広報誌等で連絡周知している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			昨年度のアンケート結果を生かし、今年度は、年間を通じて月曜日から金曜日の各曜日で避難訓練を実施したことで、利用者ほぼ全員（高等養護学校に在籍していて長期休暇などしか利用されない方を除いた全員）が、1回以上避難訓練に参加できた。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等の適切な対応をしているか。	7			今年度は、2月に虐待防止・権利擁護をテーマとした事業所内研修を実施した。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			本人、または他利用者の安全のために手をつなぐことや、叱責に腕を掴むことなどはある為、スタッフ全体で協議し振り返り支援策を決定する。身体拘束に該当する対応をやむを得ず取る可能性がある場合には放課後等デイサービス計画に記載する。（現在、記載している対象者はいない）
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			食物アレルギーのある利用者の方には、検査結果のコピーを提出してもらっている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	3	4		ヒヤリハットに関して会議の中で協議し、書面で作成しスタッフ全体で確認している。また、今後他事業所との情報交換で得たヒヤリハット事例等も参考に、事業所内でのリスクマネジメントにつなげる。